

第2回 宮崎観光に関する公開学術講演会

宮崎イメージの展開

戦前戦後における観光の連続性

講師 長谷川 司

関西学院大学 研究科研究員

2014年10月24日金 * 申込不要・聴講無料

18:30-20:30 ※開場18:00

宮崎公立大学 凌雲会館(地域研究センター共同研究室)

【プログラム】 18:00	開 場
18:30	開会挨拶 司会 宮崎公立大学 准教授 倉 真一
18:35-19:35	講演 長谷川司「宮崎イメージの展開」
19:45-20:15	ディスカッション

講師として長谷川司氏をむかえ、宮崎観光研究における最新かつ最良の成果の一端を、その集大成ともいえる同氏の博士論文をもとにご講演いただきます。

宮崎の観光史によれば、戦前から戦後へ、神話の聖地は熱帯情緒ゆたかな南国へと大きく変わった。もちろん、新たに加わえられた観光要素もある。しかし、亜熱帯植物の茂る島、美しい海岸線、ものがたりに彩られた旧跡に変わりはない。大きく変容したのは、宮崎のイメージだったのである。では、宮崎イメージはどのように展開してきたのか。観光の舞台=地方としての宮崎をイメージ演出の視点から捉え直し、従来とは違う新たな視点を示したい。



講師 長谷川 司
関西学院大学総合政策研究科研究員

1978年兵庫県生まれ。宮崎公立大学5期生。2005年から、宮崎をフィールドに観光イメージについて考察してきた。主な論文 博士論文「宮崎における観光表象の形成と変容」(関西学院大学 2012) 山中速人 長谷川司「メディアと観光—太平洋の楽園ハワイと南国宮崎におけるイメージの構築」(山下晋司編『観光文化学』新曜社 2007)、倉真一 長谷川司「宮崎の旅路は遊覧バスに乗って」(『宮崎公立大学人文学部紀要』2013) など。

第2回 宮崎観光に関する公開学術講演会

問い合わせ 宮崎公立大学 倉真一 研究室

sociology.mmu.616@gmail.com

会場案内 宮崎公立大学 地域研究センター ©0985-20-4772

主催 宮崎公立大学 社会学研究室 後援 宮崎公立大学

宮崎イメージの展開 戦前戦後における観光の連続性



長谷川 司

講師紹介

関西学院大学総合政策研究科
研究科研究員

講演梗概

宮崎イメージはどのように展開してきたのか。神話に彩られたふるさと、君知るや南の国。「神話のふるさと」「南国」、観光における宮崎のもつイメージはどのように形づくられてきたのか。戦前から戦後へ、そして現在。亜熱帯植物の自生する島、美しい海岸線、神話伝説にゆかりの神社や旧跡、これらの観光要素は戦前戦後を通じて、一貫しており、変わることはなかった。大きく変容を見せつつ、現在にいたるのは宮崎観光を成り立たせる要素群をつつむイメージであったのである。これまでの研究成果をもとに、遊覧バス、博覧会、映画、景観、観光ニュース紙といった宮崎のイメージと強いかかわりをもつ事例をもとに、宮崎観光をイメージ演出を中心にから捉え直し、従来とは違う新たな視点を示したい。

- | | |
|--------------|-----------------------|
| 1.2つのイメージ演出 | — 神話と南国 |
| 2.大地の絵と動く額縁 | — 遊覧バスと日南海岸 |
| 3.映画のなかの宮崎 | — 匿名の南国から観光地へ |
| 4.地方博覧会とイメージ | — 祖国日向博1933と南国宮崎博1954 |
| 5.新婚旅行のシーズン | — 昭和40年代前半 月刊『宮交ニュース』 |

1978年生、兵庫県赤穂市出身。宮崎公立大学人文学部国際文化学科卒業、関西学院大学大学院総合政策研究科博士課程修了、博士（総合政策）。現在、関西学院大学研究科研究員。専門は社会学、観光文化研究。2005年から、宮崎をフィールドに観光イメージについて考察してきた。丹念な資料発掘にもとづく地道で実証的な研究スタイルは、その新たな知見の数々とともに高く評価されている。主な論文に博士論文「宮崎における観光表象の形成と変容」（関西学院大学 2012）、山中速人・長谷川司「メディアと観光—太平洋の楽園ハワイと南国宮崎におけるイメージの構築」（山下晋司編『観光文化学』新曜社 2007）、倉真一・長谷川司「宮崎の旅路は遊覧バスに乗って」（『宮崎公立大学人文学部紀要』2013）など。

第2回 宮崎観光に関する公開学術講演会

講演についての問い合わせ(E-mail)

宮崎公立大学 616 倉真一 研究室

sociology.mmu.616@gmail.com

会場 宮崎公立大学 凌雲会館

(2階 地域研究センター共同研究室)

宮崎公立大学 地域研究センター

◎0985-20-4772(9:00~17:00)

